

OKoTaC 通信

オコタック

2017年2月28日発行

NO.33



P 2 NPO活動報告

『ピアにほんご 教育サポーター交流会』

P 3 多文化な子ども@大阪 のニュース

『在住外国人との交流会 “Year-end Party” 』

インターンシップ お疲れさまでした!

P 4 地域の子ども支援教室から㉓

『東大阪の学校に通う JFC(フィリピン・日本ルーツの子どもたち)の学習会』(東大阪市)

P 5 Air Mail メキシコ便り㉑

『エルタヒン遺跡と土のピラミッド(前篇)』

P 6-7 特別寄稿

『日本語指導が必要な生徒のための教材開発(3)』

P 7 書き損じはがきのご寄付をお願いします

P 8 イベント情報





おおさか子ども多文化センター 活動報告

ピアにほんご『教育サポーター交流会』

～「子どもの話の聴き方講座」開催～

オコタックが大阪府教育委員会から受託している事業「大阪府日本語教育支援センター(ピアにほんご)」では、毎年1回、教育サポーターが集まって活動に役立つ情報を学び体験を共有しあう、サポーター交流会を実施しています。今年度は12月22日(木)に府庁別館にて開催され、サポーター13名が参加しました。

まず前半は、心理カウンセラーの金野広美さんを講師にお迎えし、『子どもの話の聴き方講座 ～子どものことばに静かに、耳をかたむけてみましょう～』と題してお話しいただきました。さまざまな支援活動の場で外国から来た子どもたちと向き合い、その思いを聴く機会も多いサポーターの皆さんにとって、たくさんの気づきを与えてもらえるお話でした。参加者のお一人である宮崎さんが、下記に感想を寄せてくださいましたのでご覧ください。

また、後半はグループに分かれて、サポート活動の中で遭遇しそうな事例をいくつか取り上げ、サポーターとしてできることや、気をつけなくてはならないことなどについて話し合いました。メンバー各自の貴重な経験をもとに、さまざまな意見が活発にかかわされ、また悩みなども共有することができて、とても有意義な時間となりました。

誰かをサポートするためには、まずはその支援者自身も、抱え込まず疲れすぎず、精神的に元気であることが不可欠です。対子ども支援のスキルをアップさせることはもちろんですが、それと同時に、サポーター自身のメンタルケアの大切さも認識できたひとときだったと思います。

(A. N)

「子どもの話の聴き方講座」に参加して――

(教育サポーター 宮崎 由梨)



心理カウンセラーの金野先生は、スペイン語の教育サポーターとしても活動していいらっしゃる方で、講座はもちろん、その後行われたワークショップでも貴重なお話を聞くことができました。

カウンセリングの第一段階である「傾聴」では、子どもに「この人は自分をわかってくれる、味方なのだ」と伝わることが大切で、そのためのスキルをロールプレイを通して教えていただきました。まず、3人グループになり、聞き手・話し手・観察者を交代でやりました。最初、私は話し手になったのですが、一定時間一人で話し続けるといのがなかなか大変で……。ところが、途中で聞き手の人だけが別室に集められて、金野先生から秘密のアドバイスを受けました。するとその後は、話を聞いてもらっているという印象が強くなり、話しやすさを感じました。このアドバイスが傾聴のスキルだったわけで、身をもって効果を体験することができました。ご紹介いただいた傾聴のスキルには、「要約」「質問」のような高い言語力を必要とするものと「うなづき」「あいづち」「アイコンタクト」のようなノンバーバルなものがありました。ロールプレイ後の振り返りを聞いて興味深かったのは、人によって実践したスキルが違ったという点でした。



この講座を通して、外国にルーツを持つ子どもたちにとって、母語話者サポーターがどれほど心強い存在かということとを再認識するとともに、言語ができなくても実践できるスキルを使って、自分にできることをしていこうと、前向きな気持ちになれました。

他にもカウンセリングの第二、第三段階の「受容、共感」のお話や、カウンセリングを行う際の「枠の設定」という考え方についても教えていただきました。サポーター活動を行う中で、子どもの話を聞いていると学習時間とのメリハリがなくなってしまうという参加者の悩みが寄せられましたが、その解答が「枠の設定」(ここでは時間を区切る)でした。ここでは紹介しきれませんが、傾聴のスキルに留まらないたくさんのお話と、温かいお言葉に感謝しております。どうもありがとうございました。



『在住外国人との交流会 “Year-end Party” 』無事終了！！

(八尾市国際交流センター)

公益財団法人八尾市国際交流センター(YIC)では、当ボランティアメンバーで実行委員会を結成し、2016年12月11日に“Year-end Party”を開催いたしました。当日は、12カ国 63人の外国人住民を含む115人の参加があり、仮装大会やフィリピンのダンスパフォーマンスなどの楽しいプログラムで交流しました。朝早くからお手伝いに駆けつけてくれた外国にルーツのある人やその子どもの姿もあり、日本語でのコミュニケーションが難しくても実行委員の皆さんとともに和気あいあいとした温かい雰囲気の中で、作業は着々と進んでいきました。そんな中、YICにとって嬉しいことがありました。それは以前、センターで日本語を学習していた方が現在、フィリピンコミュニティーの八尾代表をしており、友情出演としてフィリピンダンスを披露してくれたことです。参加者はダンスに見入ったり、一緒に踊ったりして、フィリピン文化に触れることができました。懐かしい母国の踊りにウズウズして、ステージに飛び入りで一緒に踊りだす人もいて、みなさん日常生活から解放されたかのように楽しんでいました。



会場内ではあちらこちらにいろんな交流の輪ができ、会話の花が咲いていました。これからも、このような交流会を通して、外国人住民が疎外感を感じることはないよう、一人でも多くの人と友だちになり、みんなの心が温かくなってくれることを願っています。

((公財)八尾市国際交流センター 藤戸里美)



王さん インターンシップ、お疲れさまでした。



昨年の10月より大阪大学大学院に留学されている王一瓊さんがインターンシップで、オコタックの活動に関わって下さいました。非常に優秀な方でNPOの業務に関わる多くのことを助けていただきました。事務所メンバーとも和気あいあいで、楽しいひとときを送ることができました。以下は王さんからの挨拶です。王さん、本当にありがとうございました。(編集部より)

中国からの留学生、王 一瓊(オウ イツケイ)と申します。大阪大学言語文化研究科で社会言語学を専攻しています。半年間、おおさか子ども多文化センターでお世話になりました。今まで、社会経験をほぼ持たず、学生として勉強してきましたので、今回、インターンシップのチャンスに恵まれ、うれしく思いましたが、反面不安でもありました。しかし、事務所で皆様の笑顔を見ると安心しました。私はやさしい人たちに囲まれて、暖かい雰囲気の中で、外国にルーツを持つ子どもたちのための事業にかかわり、価値ある時間を過ごさせていただきました。

「えほんのひろば」では子どもたちと絵本を読んだり、「地下鉄ボランティア」では高校生と一緒に駅に立ち、観光客を案内したりしました。また、「保護者対象の多言語進路ガイダンス」では中国語通訳として、中国人のお母さんたちに、進学についてのいろいろな情報を伝えたりして、多くの人達と接することができ、とても楽しかったです。

また、事務仕事では、「仕事が速いね」と褒めていただきましたが、失敗したことも結構多かったです。そんな時にはいつも、皆さんが「大丈夫だよ」と慰めてくださいました。こんな自分を情けないと思いながらも、感謝の気持ちで胸いっぱいでした。事務所の仕事机は勉強の場になり、ランチタイムは雑談の時間となり、中日両方の考え方を交換できました。オコタックの皆さんにはかわいがっていただき、毎週、違うお菓子をいただきました(笑)。最後は、なんと、お年玉までいただきました！(すごく美味しいチョコレートです)

半年間、いろいろと勉強になり、いろいろとお世話になりました！おおさか子ども多文化センターの皆さん、本当に、ありがとうございました。



フィリピンの子どもたちの居場所——
東大阪の学校に通うJFC(フィリピン・日本ルーツの子どもたち)の学習会
(東大阪JFC) (東大阪市)

2017年2月3日の夕刊に、介護施設で働くフィリピン出身の方々の訴訟で、「賃金不払い和解」という記事が掲載されました。実は、和解した当事者の子どもの中に、東大阪JFCのメンバーがいるのです。

東大阪JFCが設立されたきっかけは、2014年夏のことです。母親が東大阪の介護施設で働いていたフィリピン人家族が、カトリック大阪大司教区 社会活動センター・シナピスに、大変な仕事と生活の現状を訴え、支援を依頼しました。その中で、子どもたちの日本語習得、教科学習への支援の要望もあり、枚岡教会の関係者や近所に住む人々、東大阪市の退職教員や大学生などが協力し、フィリピンと日本にルーツをもつ子どもたちのための学習会を始めることになったのです。

まず最初は、夏休みの宿題をすることから始めました。子どもたちはやってきましたが、積極的に参加したわけではありません。母親の抱える厳しい状況をまのあたりにしている不安感や、その不安定さから感じる寄る辺なさで、参加の気持ちが高まらないのでしょう。子どもの多くは、会社が斡旋した一つのマンションで暮らしています。そこで、子どもの気持ちを聞くため、一軒一軒部屋のドアをたたいて回りました。その甲斐あって何人かが、定期的に参加するようになりました。そしてその後、『国際協力の日』や地元東大阪の『国際フェスタ』に、フィリピンの子どもたちへの舞台出演の依頼があったのです。そのためダンスの指導者探しが始まり、同じ境遇のフィリピンルーツの大学生3人が参加してくれました。彼女らが来てからは、参加する子どもたちも増え、飛び交うタガログ語で部屋は賑やかになりました。同じフィリピン人の先輩が、大学生という存在が、子どもたちに自分の将来を思い描くときの選択肢を増やしていったのでしょう。日本人ボランティアが何をどう言っても伝わらないことが、子どもたちには伝わっているのかも知れないと思います。

自身もJFCのひとりである、ボランティアとして来ている女子大学生に、小中学生らを見ていて思ったことなどについて聞いてみました。彼女は「最初に来たときの第一印象は、子どもたちの言葉遣いがきつい、表情・態度が攻撃的、自分勝手な行動をする等、いいイメージはなかった」と言います。それが、「毎週の学習会、特にダンスの練習など続ける中で、少しずつ子どもたちの雰囲気が変わっていった。私も中学時代にこんな集まりがあればよかったのに、と思った」と感想を述べました。

現在、東大阪JFCは、小学生から青年まで、会につながりを持つ人数は20名を越えています。普段の活動においては、学校の勉強や日本語の学習とあわせて、フィリピンの踊りや文化を学ぶ時間も大切にしています。

この会の発足から2年、中卒生は全員高校に入学しました。そして、また今年も、新しいメンバーが入ってきます。この活動に興味を持たれた方は一緒に子どもたちへのサポートをしませんか。ボランティアの確保に苦勞していますので、どうぞよろしくおねがいします。
(東大阪JFC 安野 勝美)



「国際協力の日」のイベントでダンスを披露するJFC

活動場所： 東大阪市四条リージョンセンター「やまなみプラザ」 【見学も歓迎】
〒579-8054 東大阪市南四条町1番7号
※近鉄奈良線「瓢箪山」駅から南へ徒歩5分
日時： 毎週金曜日 午後6時～8時
問合せ先： annoktm@yahoo.co.jp (担当 安野)



海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り⑩「エルタヒン遺跡と土のピラミッド(前篇)」

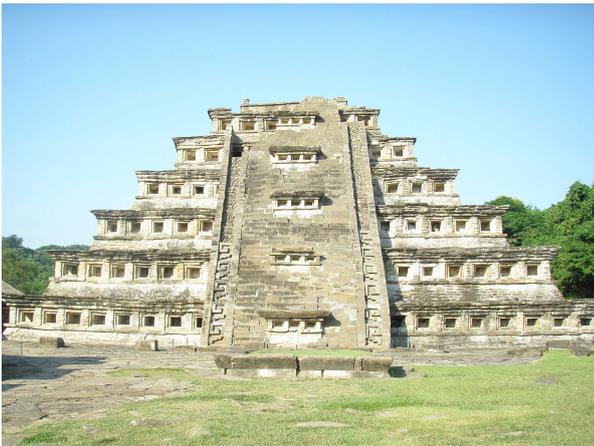
(オコタック会員 金野 広美)

メキシコには有名なテオティワカンやチチェンイツァーほか多くの遺跡があり、まだ発掘されていないものも含めると 6000 はあるといわれています。このような膨大な遺跡を調査、発掘するために、若い日本人研究者が大学などに在籍しながら活動しています。そんな彼らが「メキシコ文化研究会」というグループを作り、2007 年、2008 年、2009 年に、秋から春までの各半年間でしたが、月に1回、「メキシコ文化を知ろう」と銘うって、日本大使館領事部で連続講演会を開きました。

「国際都市テオティワカンとその住居」「サアチラ王朝史、モンテ・アルバン衰退後のサポテカ文化」「ミステカ・アルタ」など、興味深い内容で私もかかさず参加し、彼らの話を聞かせてもらいました。

その中でベラクルス州のパパントラにある、エルタヒン遺跡がテーマの「エルタヒンを歩こう」では、「ついでのおまけの話です」と、講演者の K さんが、ベラクルスの近くのテハールという村で、土でできたピラミッドが最近、発見されたという話をされました。

ピラミッドはたいがい石でできているので、土はとても珍しく、私は彼のおまけの話に興味津々、土のピラミッドと、もちろんエルタヒン遺跡も見るといって出かけました。

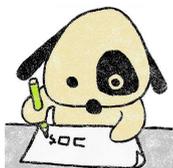


まずは、メキシコ・シティーからバスで5時間半のパパントラに行くことにし、朝9時のバスに乗りました。午後3時前に着き、荷物を置くと、さっそくエルタヒン遺跡に。バスで30分のはずが1時間以上かかり、遺跡に着いたのが午後4過ぎ。閉館は午後5時、「ちょっとしか見られへんなー、明日の朝また出直そかなー」と迷っていると、「明日もまた来ていいよ、無料にしてあげるから」という入り口のおじさんの言葉に安心して遺跡に入りました。

エルタヒン遺跡は紀元後 650 年から 1100 年ごろに栄え、窓のようなくぼみが 365 あってカレンダーになっている壁(へき)がんのピラミッド(=写真)や 17 の球技場があり、タヒン様式のエントラセスという交錯文様や、ボルタスという、うずまき文様が特徴のレリーフが数多く残されています。

メキシコの遺跡のなかでは球技場が一番数多く発掘されているのがエルタヒンなのですが、ここの球技場ではフェゴ・デ・ペロタという神に捧げるための競技が行われていました。これはちょうど、サッカーとバスケットボールを合わせたような競技で、腰と足とひじだけを使い、ゴムでできたボールを球技場の中央付近、左右の壁上方に備え付けられている直径 30 センチくらいの輪のなかに入れるというものなのですが、その輪が取り付けられている場所は高さが下から4、5メートルはあり、よくこんな高く小さな輪の中に、手を使わずにボールが入るものだと感心してしまいました。

この試合に勝ったチームのリーダーが、神に人身供犠されている様子を描いたレリーフが球技場の北東にあります。ナイフを選手の胸につかたてているのですが、石に彫られたその様子があまりにリアルなので、ちょっとショックでした。だってせっかく勝利したのに、すぐ殺されるなんてあまりに可哀想です。神は負けたものの生け贄など欲しないということで、勝者が捧げられたということらしいのですが、私だったらきっとわざと負けるだろうな、などと考えながら遺跡をあとにしました。



特別寄稿 『日本語指導が必要な生徒のための教材開発(3)』

—教科学習につなげるための日本語指導教材の開発と実践—

有本昌代(大阪府立門真なみはや高等学校教員)

1. はじめに

2. 「教科学習につなげる内容重視の日本語学習教材」の開発

2-1. シラバスの特徴

(1) 横のつながり(日本語と他教科との学習)に関連を持たせるテーマや活動を構成する(以上 31 号掲載)

(2) 縦のつながり(1年～3年生の学習内容)を考え積み重なるテーマを構成する(32 号掲載)

(3) 縦のつながり(同学年内のレベル間のつながり)を考慮し、テーマと教材を構成する

本校における日本語クラスは、同学年内でいくつかのレベルに分かれており、レベルが異なる場合でも同じテーマのもと、読み物教材のレベルを変えて学ぶことが理想的だと考える。そうすることで、学年が上がった際も学習内容の重複を避け、体系だった指導を行うことができる。違うレベルでも同じテーマで学習し、合同発表を実施することで効果も上がっている。

(4) 学校行事や将来につながるテーマで、生徒のニーズにあった内容を構成する

高校生は将来の進路を決定する上で非常に重要な時期であり、大学受験に対応できる日本語能力を身に付けること、あるいは就職のために必要な日本語能力の育成、さらに日本社会で働くためのマナー等も身に付けることが求められる。そのため開発中の日本語教材では、外国人生徒にとって必要となる実践的なテーマを取り入れた内容を構成している。例えば活動において、履歴書を書く、面接をする、ディスカッションをする、プレゼンテーションをする、レポート(小論文)を書くといった内容を取り入れ、より総合的、実践的な日本語指導に取り組んでいる。

2-2. 教材の特徴

(1) 言語の四技能をバランスよく学び、アウトプットできる活動を実施する

一般的に公立学校で日本語指導に当たる場合、国語教員が担当になることが多く、日本語が初級の生徒であっても、読解中心の学習を行う傾向がある。しかしながら国語では文学を通し、作品を味わうことが目標となるが、日本語指導では基礎となる日本語の文法学習や、コミュニケーションがまず重要となる。外国人生徒にとって日本社会で生きていくために必要となるのは、まず「聞いて理解すること」「自分の考えを話すこと」である。この2つの基礎をまずしっかり築き、それを土台に四技能を伸ばすことが大切であると考え。中国の生徒の場合、漢字の意味がだいたい理解できるため読解を重視する傾向があるが、日本語の読み方で漢字が読めない、自分の言葉で話せないというケースが見られる。筆者が日本語指導の授業で重視するのは、テーマについて学び、その知識と四技能を活用し、アウトプットする活動を必ず実施することである。そうすることで生徒が知識を整理し、活動などを通してさらに深い知識を学び、知識とスキルを定着、応用させ、かつ考えを伝えるという、総合的な学習の場を設けられると考える。



(2) 学びの過程を重視した内容重視のトピックを構成する

日本語力に差がある複数の生徒が一つのクラスに在籍する場合、1つのテキストを順番に積み上げた指導法は難しいと考えられ、その際に効果的なのは内容を重視した指導であると考え。内容重視とは、日本語学習の際に他教科のカリキュラムを関連付けた内容で統合的に日本語の学習を行うものであり、生徒のレベルとニーズに沿った内容の日本語教材を通し、言語習得はもちろん内容の理解、知識の獲得、活動の過程での学びを重視する。活動ではプレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、作文、ポスター発表などさまざまな活動を通し、個々の学びに合わせて学習することが可能である。例えば「環境問題」というトピックなら生物や化学に関連のある内容に結びつけ、「異文化交流」に関するトピックなら歴史、政治経済に結びついた内容で学ぶ。

(3) 外国人生徒と日本人生徒の交流を促すことができる活動を取り入れる



公立学校に在籍する外国人生徒は、日本人生徒に比べると少数で孤立する傾向がある。日本人の前で話す際にためらったり、恥ずかしがったりして、なかなか日本人 生徒とコミュニケーションがとれないことがある。また日本人生徒にとっても、外国人生徒は教科授業で抽出されることが多く、どれだけ日本語を理解し、話せるのかわからないため、声をかけにくいという状況がある。そこで活動を工夫して、日本人生徒とコミュニケーションできる発表方法を考えている。例えばリサーチした内容に関するクイズ形式のポスターを廊下に掲示し、解答を投票してもらい、正解者を発表した。その際日本人生徒だけでなく教員も参加し、たくさんの人が関心を寄せてくれたことに、外国人生徒は驚きながらもやってよかったと感想を述べた。

3. おわりに

小中高校に在籍する外国人児童生徒は言語発達と認知発達の途中段階にあり、小中高生と成人の言語教育の違いを踏まえた日本語指導が求められる。しかしながら現状として市販されている教材は、成人向けがほとんどで、中高生向けの日本語教材で、思考力の育成を目指した教材は市販されていない。外国人児童生徒の場合、日本において生徒の母語で思考力を育てられる環境は少なく、第二言語の日本語を用いて思考力を育てる必要性が問われている。それが効果的に行われないと、物事を考え分析したり、問題を解決したりするための思考力がなかなか育たない。単に日本語を学ぶだけでなく、日本語学習から各教科の学習に結びつけること、日本語学習と思考力や発表力の育成を結びつけること、日本社会で働くための文化的社会的マナーも学ぶことが、日本語指導においても重要な目標であり、彼らが将来日本社会や国際社会で活躍し、日本と各国の架け橋になれることを期待する。

(最終回)

編集部より

3号に渡り掲載しましたが、学校で日本語教育を担当されている方は非常に興味のある内容であり、もう少し詳しい内容を知りたいと思われたのではないのでしょうか。ご質問やご感想などございましたら、ぜひ有本先生までご連絡ください。

(T-ArimotoMas@medu.pref.osaka.jp)

年賀状などの「書き損じはがき」、引き出しの奥に



眠っている「未使用の切手」をご寄付下さい。

当センターの活動を広く知っていただくために、『OKoTaC 通信』を各地の関係団体や公共施設などにも送付しております。そこで、これら広報活動へのご支援をお願いしたく、今年も「書き損じはがき」等の寄付を募らせていただくことになりました。

- ・送っていただくはがき・切手は、「郵便局発行」の「使用していないもの(未投函のもの)」に限ります。
- ・書き損じたはがきも、未投函であれば寄付になります。
- ・普通のはがきだけでなく、年賀はがき・かもめーるなども対象です。
- ・はがきも切手も、未使用であれば、発行年や額面金額などに関係なく寄付となります。

※書き損じはがきのプライバシー保護につきましては十分留意いたしますが、もしご心配であれば、お手数ですが住所などをマジックで消してお送り下さい。
なお、はがきは郵便局でまとめて溶解し再生紙の材料としています。

☆ご協力いただける方は、封筒などに入れて、当センター事務所までお送りください。
また、事務所にお寄りくださるときに、ご持参くださっても嬉しいです。



★送付先・お問合せ★ NPO 法人 おおさか子ども多文化センターまで

〒550-0005 大阪市西区西本町1-7-7 CE 西本町ビル8階

osakakodomo@gmail.com



オコタックからのお知らせ

「高校生活オリエンテーション」 (大阪府教育庁主催)

日時： 2017年3月25日(土) 13:00~16:00

場所： 大阪府立今宮工科高等学校

対象者： 平成29年度大阪府立高校に入学する帰国・渡日生徒および保護者

内容： 「学校のルール」「卒業後の進路」「学費」など、日本の高校生活で大切なこととお話しします。卒業生の体験談を聞くこともできます。保護者の方と一緒に参加してください。(通訳あり)

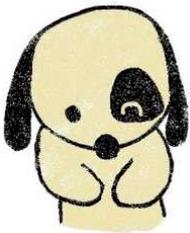


※入学する高校の先生を通じて申し込んでください。

問合せ先： 大阪府日本語教育支援センター(ピアにほんご) Tel 050-3513-1497

大阪府教育庁高等学校課 Tel 06-6491-0351

会員継続 および 新規登録のお願い



おおさかこども多文化センター(オコタック)は外国にルーツをもつ子どもたちの支援を目的に、大学教員、学校関係者、日本語教師、支援ボランティアなどを中心として2011年に発足し、この2月で6年になりました。この間、みなさまのご協力とご参加のもと、多くの活動をしてまいりました。私たちがかわっている次の世代を担う子どもたちは必ず、幸せな人生を送るとともに、平和で安全、安心な多文化社会を築いてくれるものと信じています。

さて、本年も会員継続手続きの時期がまいりました。アベノミクス等で景気が良くなるといわれ久しいですが、どういわけか、身の回りには私も含めその恩恵にあずかっている人は少ないようです。このような状況にもかかわらず、みなさまにご負担をお願いするのは誠に恐縮ではございますが、NPO活動をご支援いただくため、どうぞよろしくお願いいたします。

正会員： 会費 3,000 円/年 (別途入会金 1,000 円) 法人会員： 会費 10,000 円/年

※OKoTaC 通信の郵送(希望者)、メール配信・各種イベントの情報提供、参加費の割引など、

さまざまな特典があります。

賛助会員： 一口 1,000 円/年 (何口でも)

★新規ご入会のお問合せは下記までお願いします。

NPO 法人 おおさかこども多文化センター 代表 濱名 猛志

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8 階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL http://okotac.org

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ゼット・ウキウキ))

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824)

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』

(フリガナ: トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター)

